シリーズ

子どもの健康

警告！ 風疹が流行しています

風疹は、発熱・発疹・リンパ節の腫れを特徴とするウイルス性の疾患で、その感染力は麻疹ほどではないものの、インフルエンザよりは強いです。しかし、症状だけで風疹と判断するのは難しく、そもそも発症したことに気づかない「不顕性感染」も 15～30%あることから、たいしたことないからと普段通り生活しているうちに、通勤電車や街中で誰かに感染させている可能性があります。

風疹は 1990 年代前半まで 5～6 年おきに大流行し、2004 年には約 4 万人が罹患し、10 人の先天性風疹症候群の赤ちゃんが生まれました。今年はすでに 11,489 人（6/26 現在）が罹患し、先天性風疹症候群の赤ちゃんは 6 例報告されています。

（執筆：菊田）

風疹対策どうすればいいの？

風疹に治療薬なし！「接種を検討」ではなく即ワクチン！

- 妊娠する前に夫婦共に予防接種を。
- ワクチンが効果を発揮するのは接種数週後
  妊娠してから接種では遅い（父親）
- 妊娠中の母体へのワクチン接種はダメ！
- 子作り世代じゃない人もワクチン接種を。
  他人事と思わず、自身が媒体になる事を防ごう

提言　社会全体で妊婦と生まれ来る命を守ろう

- 定期接種の年齢区分をなくして、みんな接種を無料化を。
- 風疹、MRワクチンの十分な量の生産、提供を！
- 他ワクチンとの同時接種を推奨すべき。

先天性風疹症候群（CRS）

1）先天性心疾患、2）難聴、3）（高度）難聴、の三大症状のほか、網膜症、肝脾腫、血小板減少、糖尿病、発育遅滞、精神発達遅滞、小眼球など。
母親が妊娠 4～6 週で罹患するとほぼ 100%、7～12 週で 80%、13～16 週で 45～50%発生する。

尼崎市では下記のように予防接種助成事業を行っています。
女性は接種前 1 ヶ月・接種後 2 ヶ月間は避妊をしましょう。

対象：1）将来的に妊娠を予定・希望している女性
または 2）妊婦の同居家族
いずれも市内在住で、風疹にかかったことがなく、風疹ワクチンの接種歴もない方に限る

助成額：5,000 円（2014/3/31 までに接種した MR ワクチンまたは風疹ワクチンいずれか 1 人 1 回）

利用方法：市のホームページを参照してください
http://www.city.amagasaki.hyogo.jp/kenko/vaccination/026589.html

問い合わせ：保健所 感染症対策担当（4869-3010）

ワクチンそのものが不足していることから、国は抗体検査（自費）を行ってからのワクチン接種を推奨しています。